

令和元年度 全国学力・学習状況調査 能勢町の結果概要について

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査実施日 平成31年4月18日（木）

3. 調査対象 能勢町立能勢小学校 第6学年 能勢町立能勢中学校 第3学年

4. 調査事項及び内容

(1) 教科に関する調査

小学校第6学年：「国語」「算数」

中学校第3学年：「国語」「数学」「英語」

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

5. 能勢町の参加状況

小学校1校 実施児童数 51名 中学校1校 実施生徒数 53名

6. 公表にあたって

- 本町は公立小学校1校、公立中学校1校であるため、学力における調査結果の明確な数値による公表は、学校単位の公表となるため非公表とする。
- 本調査により測定できるのは、学力や学習状況、生活状況の特定の一部であることに留意する必要がある。

7. 調査結果概要

①平均正答率の府・国との比較

※大阪府比・全国比は、±5ポイント未満は「同等」、5ポイント以上上回る場合は「上回る」、5ポイント以上下回る場合は「課題がある」と表記

| 区分 | 小 学 校 | |
|------|-------|-----|
| 教科 | 国 語 | 算 数 |
| 大阪府比 | 同 等 | 同 等 |
| 全国比 | 同 等 | 同 等 |

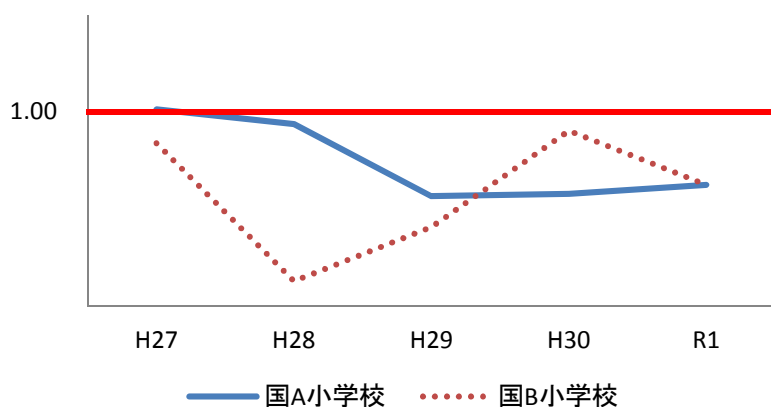
| 区分 | 中 学 校 | | |
|------|-------|-------|-----|
| 教科 | 国 語 | 数 学 | 英 語 |
| 大阪府比 | 同 等 | 課題がある | 同 等 |
| 全国比 | 同 等 | 課題がある | 同 等 |

②平均正答率の国との比較

今年度から、国語、算数、数学においてA・Bの区分がなくなったため、A・Bそれぞれからの推移を標記した。

※全国平均正答率を1としたときの町各教科平均正答率の推移

・小学校 国語A（実線）・B（破線）経年変化

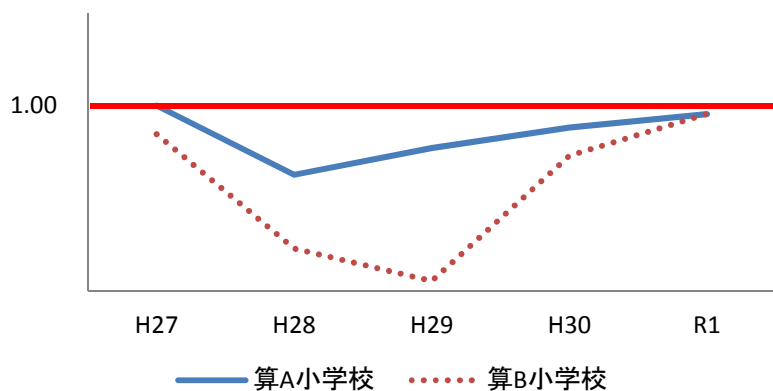


小学校

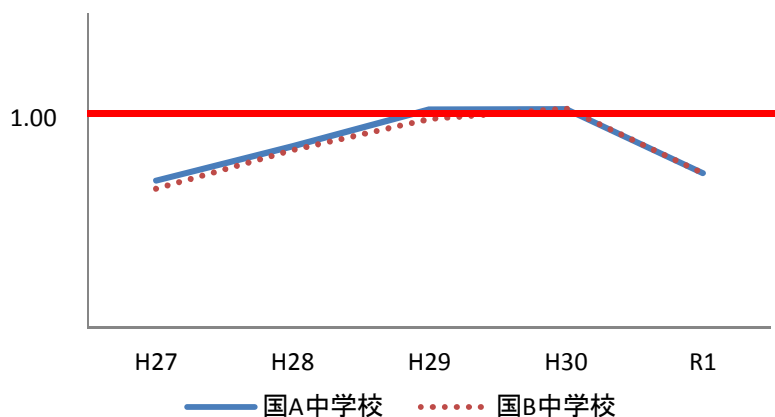
○国語・算数において全国平均正答率に達していない。

○算数においては全国平均正答率に近い値となっている。

・小学校 算数A（実線）・B（破線）経年変化



• 中学校 国語A（実線）・B（破線） 経年変化

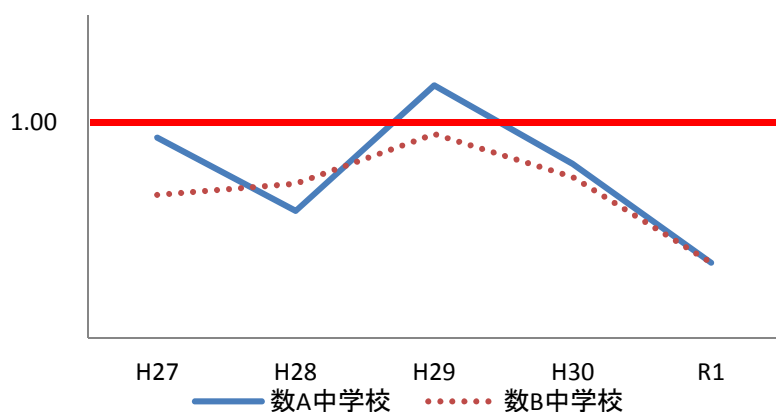


中学校

○国語・数学において全国平均正答率に達していない。

○数学は昨年度より下降傾向が続いており、原因について詳細な課題の分析、2学期以降の指導の手立てが必要である。

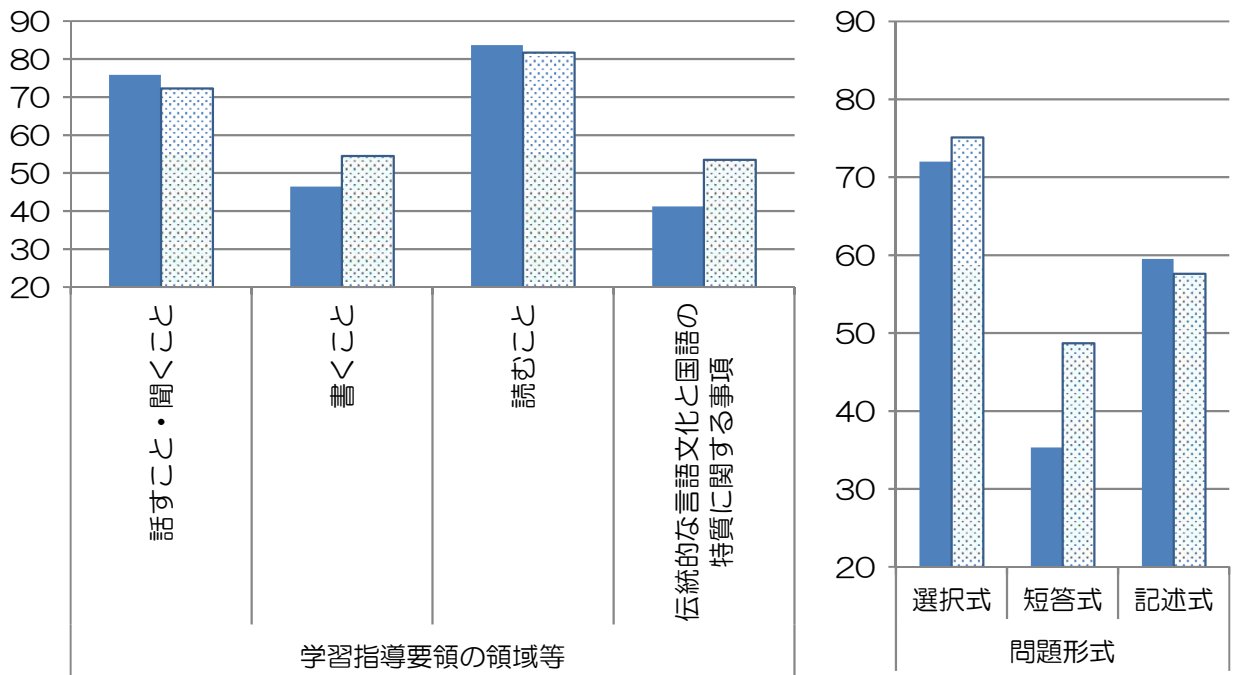
• 中学校 数学A（実線）・B（破線） 経年変化



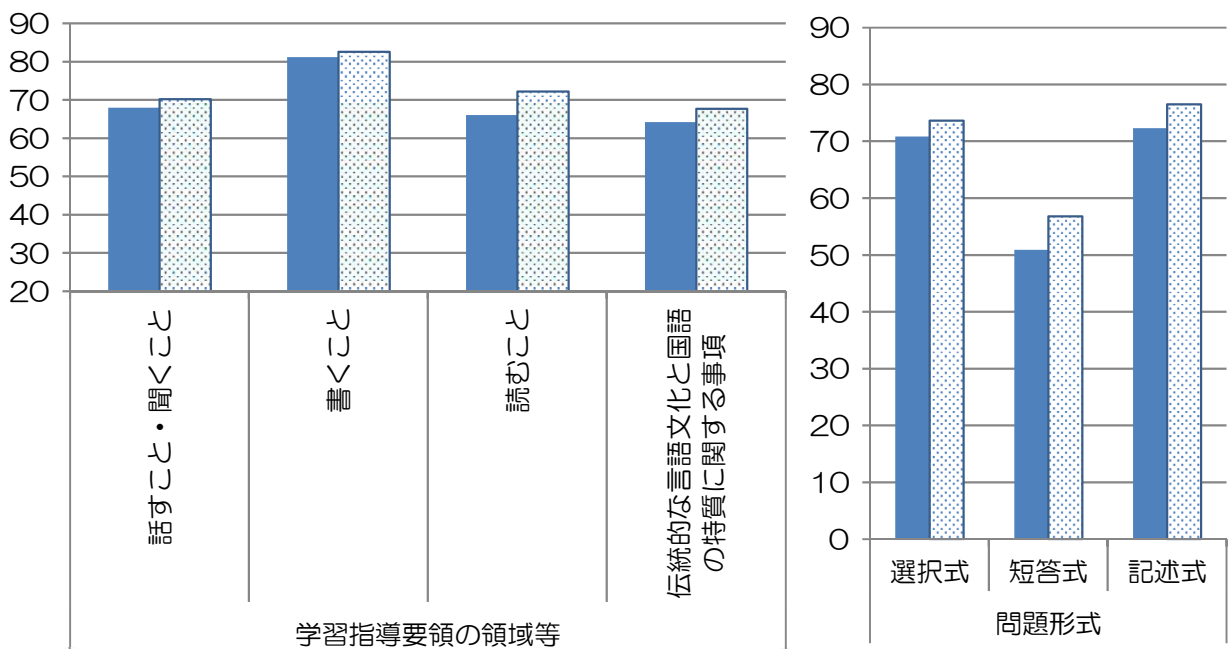
③国語における学習指導要領の領域等別平均正答率(%)と問題形式別正答率(%)

【 ■ ; 能勢、 ▨ ; 全国 】

・小学校 国語



・中学校 国語



○小学校・国語において「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率が全国を大きく下回っている。この結果は昨年度と同様である。

○中学校・国語では全ての領域において、全国を下回っている。

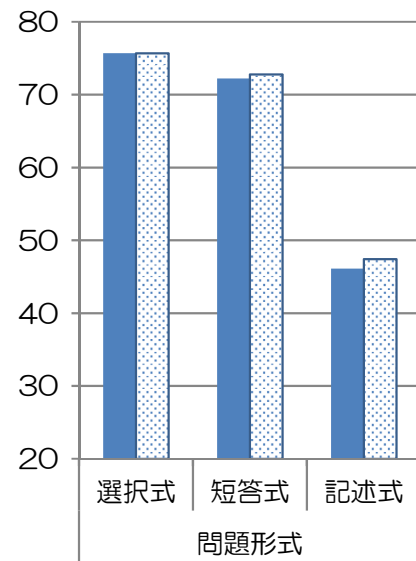
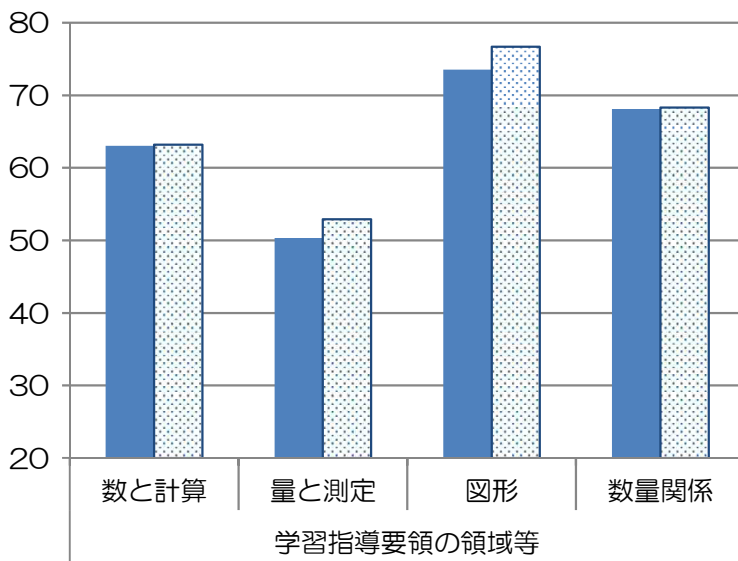
○昨年度、「読むこと」に関しては、小・中学校ともに全国を上回っていたが、今年度は小学校のみ全国を上回った。

○小・中学校において短答式の正答率が全国を大きく下回っていることから、基礎・基本の徹底に課題があると考えられる。

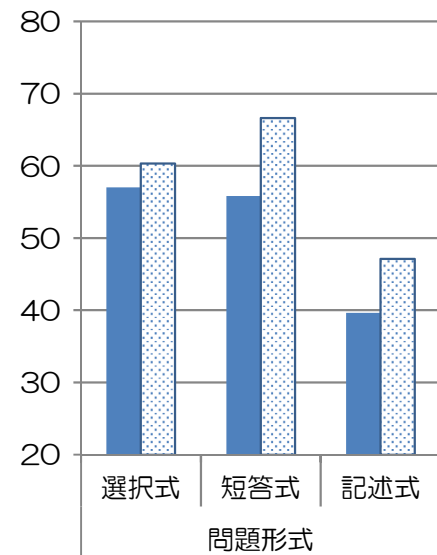
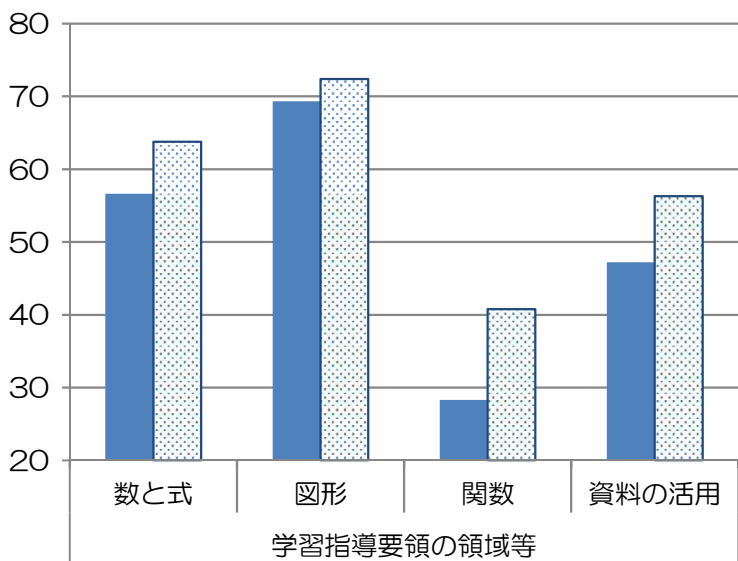
④算数・数学における学習指導要領の領域等別平均正答率(%)と問題形式別正答率(%)

【 ■ ; 能勢、 ▨ ; 全国 】

・小学校 算数



・中学校 数学



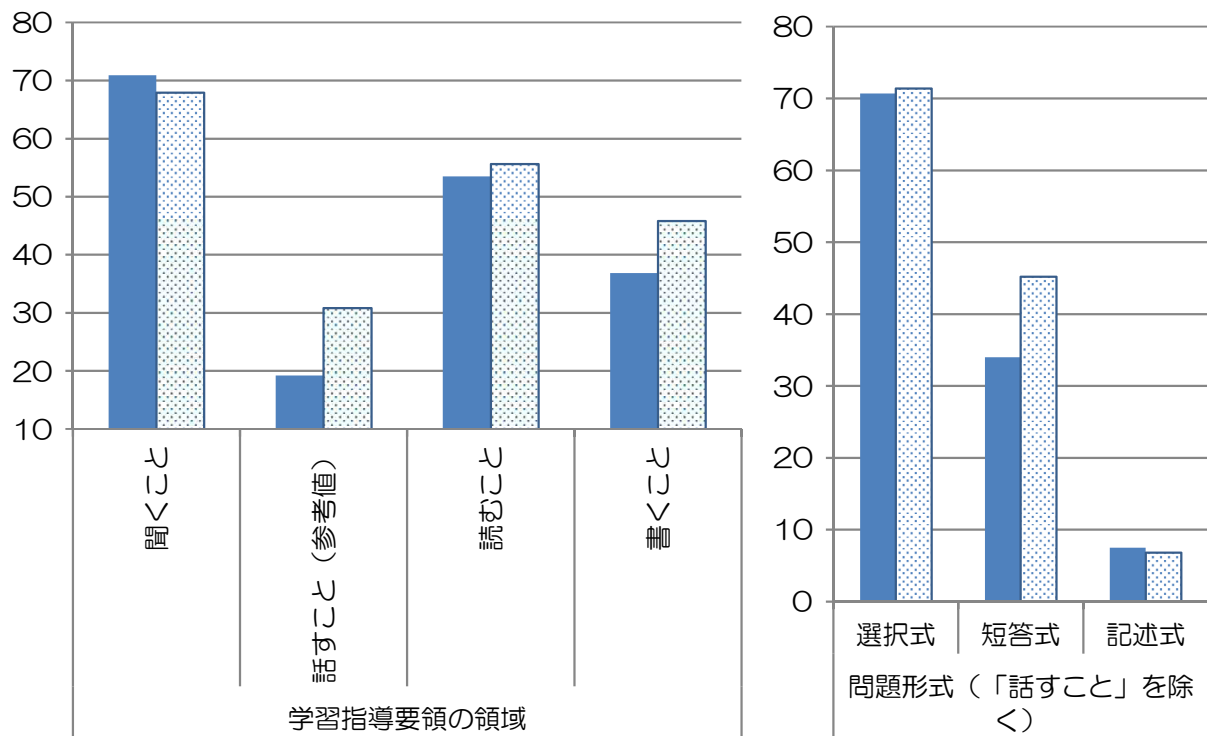
○算数・数学においては、全ての領域及び問題形式において全国平均正答率を下回っている。

○数学の「数と式」「関数」「資料の活用」の領域で、全国を大きく下回っている。また短答式、記述式の正答率が全国より大きく下回っている。

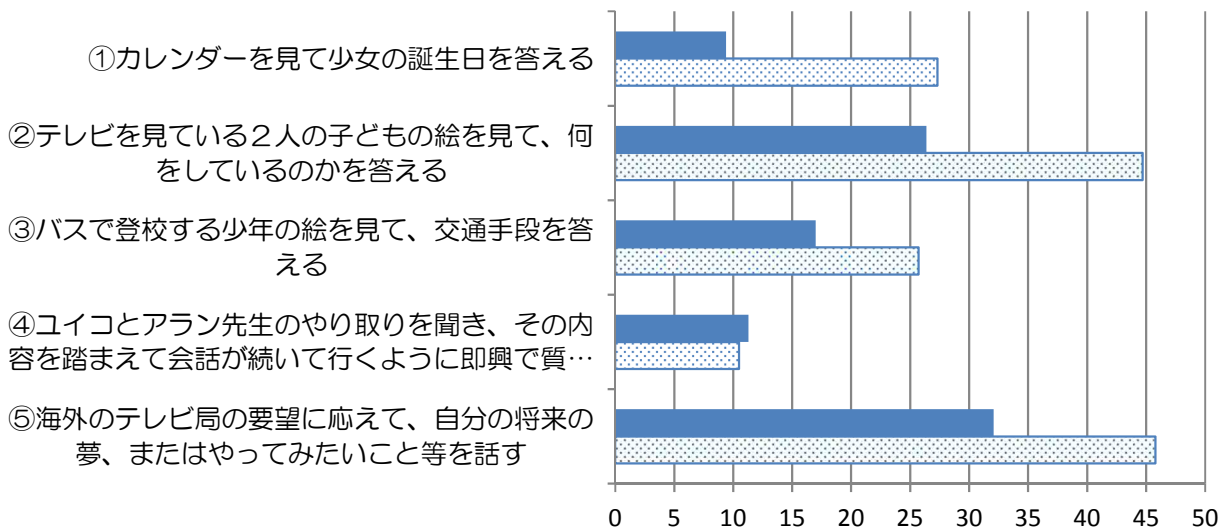
⑤英語における学習指導要領の領域等別平均正答率(%)と問題形式別正答率(%)

※話すことテストは、機材の問題で実施をとりやめた学校があったため、参考値として公表されている。

【 ■ ; 能勢、 ▨ ; 全国 】



※「話すこと」調査全5問における問題別正答率 (%)

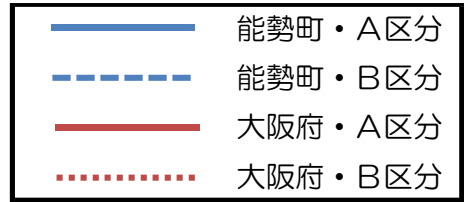
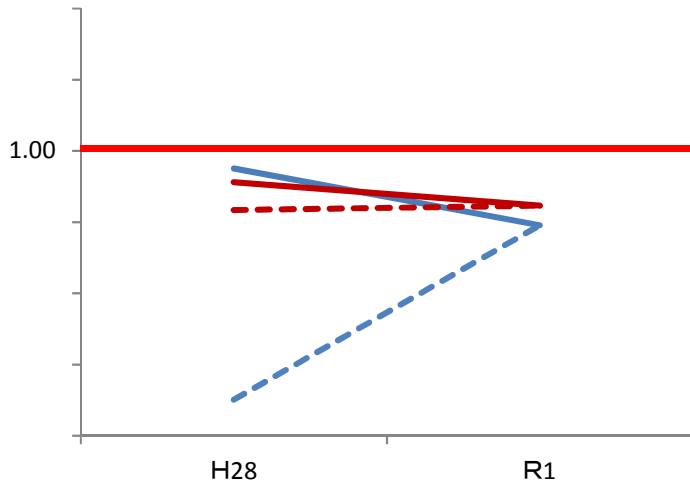


○「聞くこと」において全国平均正答率を上回っているが、その他は下回っている。「話すこと」「書くこと」では大きく下回っている。
 ○「話すこと」①②の設問など、基礎的な問題における正答率が低い結果となっている。また、⑤において全国平均正答率を大きく下回っており、即興で話すことに課題がある。

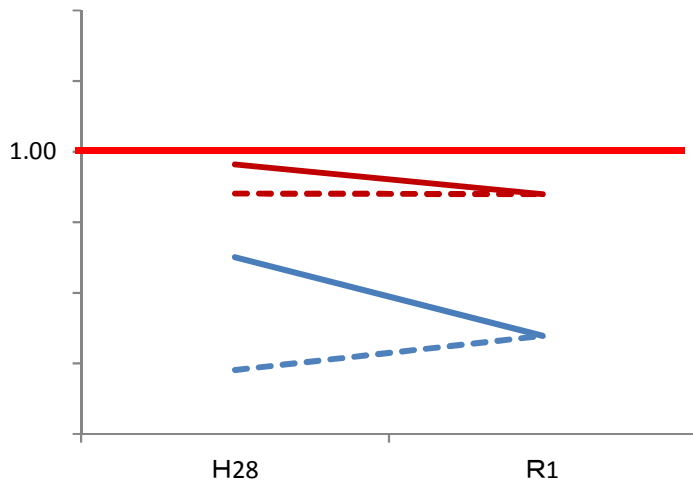
⑥同一集団比較（全国を1として比較）

※現中学校3年生が小学校6年生時点での結果との比較

・国語



・算数、数学



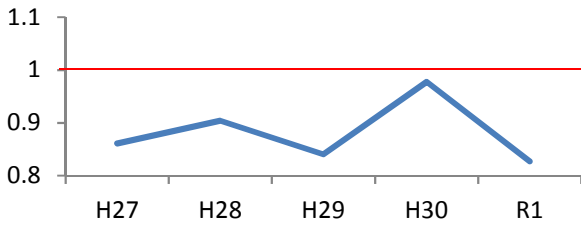
- 国語・算数ともに全国平均・大阪府平均に届かず、課題がみられる。
- 数学が全国平均を大きく下回っている。

⑦児童・生徒質問紙における平均回答率の国との比較（経年）

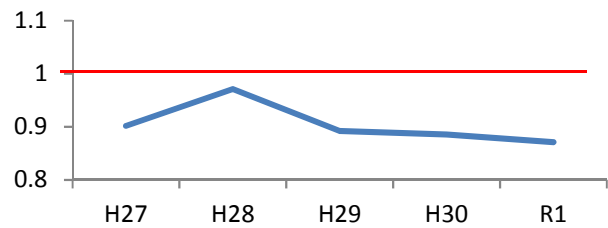
※全国を1としたときの平均回答率を算出して比較

(1) 朝食を毎日食べる

・小学生



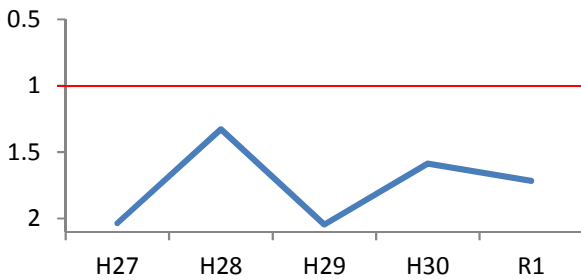
・中学生



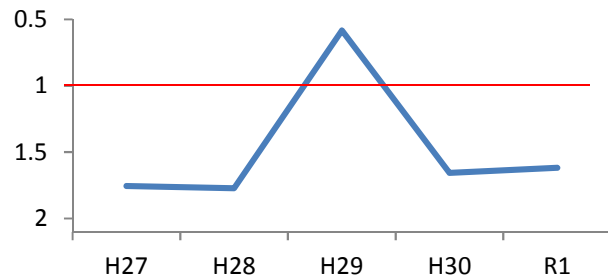
○小中学生ともに昨年より減少しており、全国の割合よりも低い。

(2) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たり30分未満の勉強時間の割合

・小学生



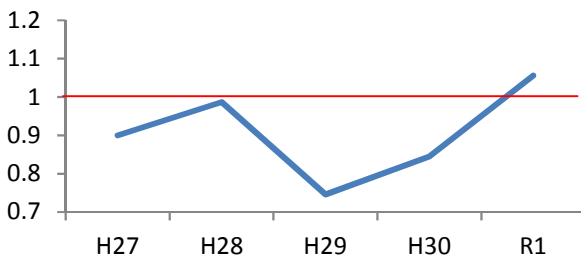
・中学生



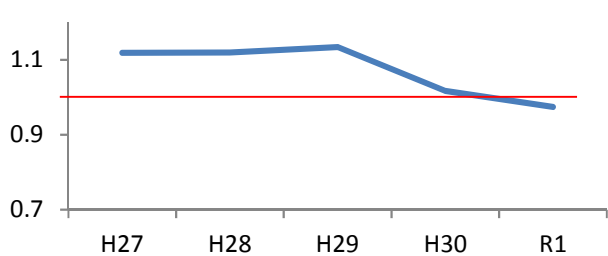
○小中学生ともに全国平均回答率よりも高い。

(3) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。

・小学生



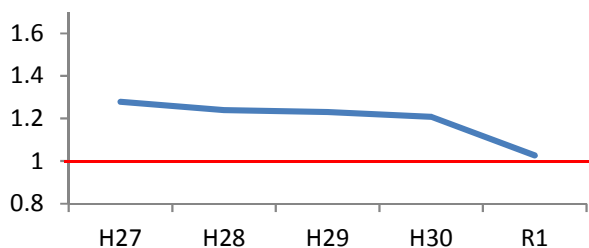
・中学生



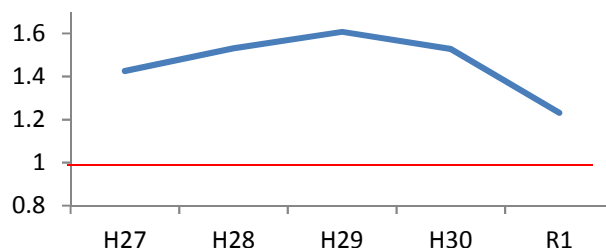
○小学生は、昨年度より「計画的に学習している割合」が増加し、全国を上回っている。
○中学生においては昨年度より下降し、全国を下回っている。

(4) 今住んでいる地域の行事に参加していますか。

・小学生



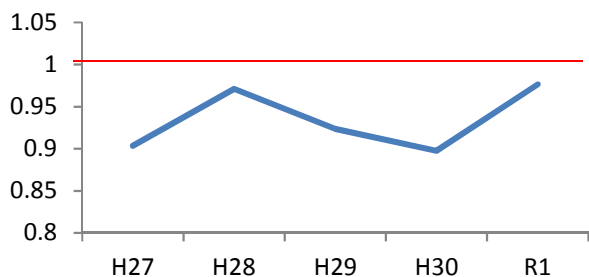
・中学生



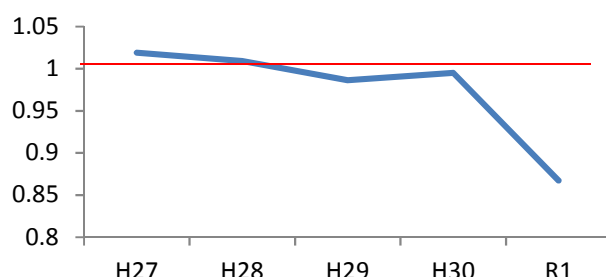
○全国平均回答率より高い状態が続いており、積極的に地域の行事へ参加していることがうかがえる。

(5) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

・小学生



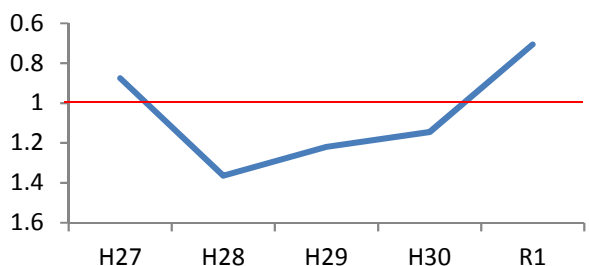
・中学生



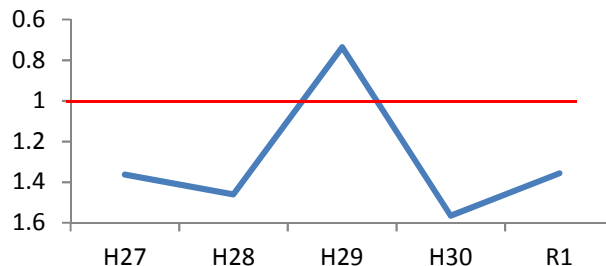
○小中学校ともに全国を下回っている。
○いじめに対する取組や声掛け、集団作りが必要であると思われる。

(6) 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌を除く）」の質問に対し、「まったく読まない」と答えた割合

・小学生



・中学生



○小中学生ともに昨年度より、本を読む子どもが増加したと思われる。
○中学生では今後、さらに読書指導の充実を図る必要がある。

8. 学校による結果分析

結果分析は、解答類型を活用して行っている。解答類型とは、設定する条件等に即して解答を分類、整理したものである。どこでつまづいているかに着目し、学習指導の改善・充実に活用していく。

例 四捨五入して1万の位までのがいすうにしたとき、20000になる整数を下の1から5までの中からすべて選んで、その番号を書きましょう。

- 1 14500
- 2 15000
- 3 19500
- 4 24999
- 5 25000

| 解答類型 | 正答 | 反応率 |
|-------------|----|------|
| 2.3.4 と解答 | ◎ | 60.4 |
| 3 と解答 | | 1.9 |
| 2.3 と解答 | | 11.8 |
| 3.4 と解答 | | 2.8 |
| 4.5 と解答 | | 0.7 |
| 2.3.4.5 と解答 | | 0.8 |
| 1 を含めて解答 | | 9.8 |
| 上記以外の解答 | | 9.8 |
| 無解答 | | 1.9 |

→解答類型より、2.3 と解答している児童が多いので、千の位を四捨五入する問題にもかかわらず、百の位と千の位の両方を四捨五入している児童が多いと考えられる。よって問題を理解し、どこの位を四捨五入すれば良いのかを判断することができる学習が必要であると分析をすることができる。

《能勢小学校》

【国語】

○課題がみられる設問①

1

高橋さんの学校では、生活の中で奥になつたことを調べ、友達に報告することにしました。高橋さんは、公共電話について調べています。次は、高橋さんが書いてある「報告する文章」です。これをよく読んで、あとで問に答えましょう。

「報告する文章」

公共電話について

はじめに

先日外出したときに、家に電話をかけたところ近くの店に行くと、つたはずの公共電話がなくなつていて、こまづきました。た、よく行く公園の公共電話も、いつの間にかなくなつてしまつた。わたしは、公共電話の数が減つてきているのではないかと思ひました。そこで、公共電話の数を調べようと思ひました。それによつて、公共電話の数が減つてきているのかどうかを調べようと思ひました。そこで、公共電話の数を調べようと思ひました。それによつて、公共電話の数が減つてきているのかどうかを調べようと思ひました。そこで、公共電話の数を調べようと思ひました。それによつて、公共電話の数が減つてきているのかどうかを調べようと思ひました。...

調査の内容と結果

(1) 公共電話はどのくらい必要なのか

わたしは、公共電話はどのくらい必要なのかを調べることにしました。そこで、地元の公共電話の状況を調べてみました。公共電話は必要かどうかを調べるには、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめると、(資料2)です。『けいこちゃん』の調査結果をみると、公共電話の数が減つてきていることがわかります。『けいこちゃん』の調査結果をみると、公共電話の数が減つてきていることがわかります。『けいこちゃん』の調査結果をみると、公共電話の数が減つてきていることがわかります。...

(2) 公共電話にはどのような使い方ができるのか

公共電話について調べた資料を調べてみると、公共電話には、次のような使い方がありまふ。『1』には、硬貨やテレホンカードがなくても通話することができます。『2』には、硬貨やテレホンカードがなくても通話することができます。『2』には、硬貨やテレホンカードがなくても通話することができます。『2』には、硬貨やテレホンカードがなくても通話することができます。...

(3) 公共電話はどのような場所にあるのか

公共電話はどのような場所にあるのかを調べることにしました。そこで、公共電話の設置場所を調べてみました。公共電話の設置場所は、駅や学校、公園などです。公共電話の設置場所は、駅や学校、公園などです。公共電話の設置場所は、駅や学校、公園などです。...

調査の結果から、公共電話は、わたしたちにとって必要がなくなつてしまつたわけではないと考へました。...

また、公共電話を使いたいときには、多くの人がある場所へ行けば見つけやすいのではないかという考へも考へました。今回の調査を通じて、学校の友達に、学校や公園に公共電話の設置を促すように伝える、公共電話について、みんなにも伝えてあげたいと思ひます。

(資料1) 公共電話設置台数の増減

| 年 | 1980 | 1985 | 1990 | 1995 | 2000 | 2005 | 2010 | 2015 |
|----|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 台数 | 300 | 250 | 200 | 150 | 100 | 50 | 20 | 10 |

(資料2) 公共電話が必要な理由のまとめ(複数回答)

| 理由 | 人数 |
|--------|-----|
| けいこちゃん | 22人 |
| けいこちゃん | 12人 |
| けいこちゃん | 5人 |
| けいこちゃん | 4人 |
| けいこちゃん | 4人 |
| その他 | 5人 |

(資料3) 公共電話の設置場所を示した地図

- 問題/正答 [1] 二/1
- 平均正答率 能勢小学校【 52.9 】% 全国【 63.4 】% 大阪府【 62.7 】% 無解答率【 3.9 】%
- 考えられる課題 (※解答類型を活用して)

解答類型を見ると、本校の誤答の8割が3と解答していることがわかる。3の選択肢を見ると、『図や表を用いて事実を示す』とある。実際に、この設問には、3つの資料が使われている。誤答が多いのも頷ける選択肢ではある。ただ、大阪府・全国の3の誤答の割合が2割弱に対して、本校では3割を上回っている。大阪府・全国と比べると誤答の割合が極めて高いといえる。

ここから考えられる課題として、文章を読みきれていない、文章の全体的な見ただけで判断してしまっていることが挙げられる。設問に『(2) 公共電話にはどのような使い方や持ちようがあるのか』について限定された書き方になっているが、文章全体の工夫と捉え、3と解答してしまっている児童が多いと思われる。

【授業での考えられる課題】

キーワードに着目して文章をまとめたり、限定された条件の中で自分の意見を書いたりという学習活動が日常的な授業の中で組みこまれていない。このような設問を扱った問題をタイムリーに取り入れ、児童が慣れていく必要がある。

・今後の取組の方向性

上記の誤答の傾向より、まず文章をじっくりと読むことが重要となる。3を選ぶということから、文章を全く読めていないというわけではない。ただ、大切なキーワード【(2)に限定されている】を見逃してしまっているといえる。

本校では1学期末テストの反省より、物語文・説明文のまとめの段階で、キーワードと文字数を制限してまとめを書いていくことを実施していくこととなった。この取組が、キーワードを意識して見落とさないという課題の解消にもつながっていくと考へる。

【国語】

○課題がみられる設問②

1 高橋さんの手紙では、生活の中で気がなつたことを調べ、友達に報告することにしました。高橋さんは、公共電話について調べています。次は、高橋さんが書いている『報告する文章』です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【報告する文章】

公共電話について

高橋 めぐみ

1 はじめに
先日外出したときに、家に電話をかけようと思ったのに近くの店に行くと、あつたはずの公共電話がなくなつていて、こまづいてしまいました。また、よく行く公園の公共電話も、いつの間にかなくなつていました。わたしは、公共電話の数が減つてきているのではないかと心配し、公共電話の数を調べてみることにしました。それから調べたのが、『資料1』です。平成二十九年から三十九年度までの十年間で、公共電話は、わたしたちが知らない間に減つていってしまつたのかが調べてみることにしました。

2 調査の内容と結果
(1) 公共電話はどのくらいのペースで減つていくのか
公共電話は、家に電話をかけようと思ったときに近くの店に行くと、あつたはずの公共電話がなくなつていて、こまづいてしまいました。また、よく行く公園の公共電話も、いつの間にかなくなつてしまいました。わたしは、公共電話の数が減つてきているのではないかと心配し、公共電話の数を調べてみることにしました。それから調べたのが、『資料1』です。平成二十九年から三十九年度までの十年間で、公共電話は、わたしたちが知らない間に減つていってしまつたのかが調べてみることにしました。

(2) 公共電話はどのような使い方ができるのか
公共電話について書かれた資料を調べてみると、公共電話には、次のような使い方がありました。
・緊急番(110番)や消防番(119番)には、硬貨やレホンカードがなくても通報することができます。
・電話が混み合っているときでも、優先的につなぐことができます。
このように、公共電話は、さまざまなときに使うことができます。このことが分りました。

(3) 公共電話はどのような場所に設置されているのか
公共電話は、さまざまな場所に設置されています。わたしが調べたところによると、公共電話は、次のような場所に設置されています。
・公園や学校、駅などの公共施設
・商業施設や公共施設
・公共施設や公共施設
このように、公共電話は、さまざまな場所に設置されています。わたしが調べたところによると、公共電話は、次のような場所に設置されています。

3 調査の結果から、公共電話は、わたしたちにとって必要かどうかを判断するために、わたしが調べたところによると、公共電話は、次のような場所に設置されています。

4 高橋さんは、『報告する文章』を書き終え、読み返しています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 高橋さんは、習っている漢字がひらがなになつていくのが気になります。書き直すことにしました。『報告する文章』の「……郵アからのひらがなを、漢字でいかに書き直しよう」ところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。

そこで、地いきの三十人調査の「アたいししょう」として、公共電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。

今回の調査を通して知ったことを、手紙の友達に「あきらまず多くの友達に伝え、公共電話について、かんしんをもちたい」と思っています。

【資料1】 公共電話設置数の変り

| 年度 | 設置数(万台) |
|--------|---------|
| 平成29年度 | 230 |
| 平成30年度 | 220 |
| 平成31年度 | 210 |
| 平成32年度 | 200 |
| 平成33年度 | 190 |
| 平成34年度 | 180 |
| 平成35年度 | 170 |
| 平成36年度 | 160 |
| 平成37年度 | 150 |
| 平成38年度 | 140 |
| 平成39年度 | 130 |

【資料2】 公共電話が必要な理由とその必要回数

| 理由 | 必要回数 |
|----------------------------|------|
| ほしい電話をわすれたときに必要 | 22人 |
| ほしい電話の電達が切れたときに必要 | 12人 |
| ほしい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要 | 5人 |
| ほしい電話の電達がどのくらい頻りにあるときに必要 | 4人 |
| ほしい電話や家の電話がつかないときに必要 | 3人 |
| その他 | 5人 |

【資料3】 公共電話の設置場所を示した地図

- 問題/正答 1 四 (1) ア/対象
- 平均正答率
 能勢小学校 【 11.8 】 % 全国 【 41.9 】 %
 大阪府 【 36.2 】 % 無解答率 【 7.8 】 %
- 考えられる課題 (※解答類型を活用して)

『たいしょう』の『たい』は『対』と書けるが、『しょう』を『象』と書けていない児童(本校 64.7%大阪府 36.4%全国 32.5%) がとても多い。『照』と書いて間違えている児童(本校 2.0%大阪府 3.6%全国 3.3%) も少ないことから、『しょう』を『称』やその他の字で書いている児童が多いことが解答類型よりわかる。本校の近年の特徴として、漢字の書き取りに課題があることが見えている。特に、同音異義語がとても弱い。別の設問である、『かんしん』を『関心』と書けている児童の割合が低いことも同様の課題として挙げられる。

漢字については、高学年になるほど授業の中で扱う時間が難しい。どうしても宿題で進めていくことが多くなる。宿題になると、漢字自体は覚えることができるが、同音異義語まで児童が押さえることは難しい。宿題に同音異義語のプリントを交えたり、授業の中で、同音異義語について定期的に復習したりする必要を感じる。

今後の取組の方向性

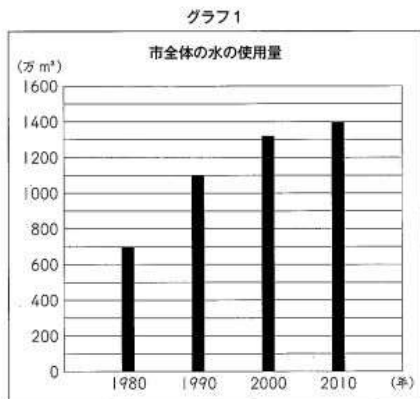
上記でも挙げたが、本校の課題として漢字の書き取りが挙げられる。3 学期の漢字検定テストに向けて、2 学期より、月曜日の朝学習や宿題で漢字学習に積極的に取り組んでいくこととなる。そこで、基本的な漢字はもちろん、同音異義語については、より力を入れて取り組む必要がある。また、繰り返し問題に取り組むことも大切だが、宿題等で丸つけをして終わりではなく、授業の中で漢字の意味についても触れていく時間をとる必要を感じる。漢字の指導にあたっては、文章の中で出てくる熟語の意味について考えさせる授業も必要である。特に『たいしょう』については、全国学力テスト以外でも繰り返し出題されているところを見るので、しっかりと意味を押さえたい。同音異義語については、指導者が本校の児童の課題であると意識しながら取り組む必要があると感じる。

【算 数】

○課題がみられる設問①

2

かいとさんたちは、水を大切に使用しているのどうかを知りたいと思い、まず、自分たちの住んでいる市では、水をどのくらい使っているかを調べています。かいとさんは、グラフ1を見つめました。



(1) 1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、グラフ1からどのようなことがわかりますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 市全体の水の使用量は、減っている。
- 2 市全体の水の使用量は、変わらない。
- 3 市全体の水の使用量は、増えている。
- 4 市全体の水の使用量は、増えたり減ったりしている。

(2) グラフ1の、2010年の市全体の水の使用量は、1980年の市全体の水の使用量の約何倍ですか。答えを書きましょう。

・問題/正答 2 (2) / 2 (倍)

・平均正答率

能勢小学校 【 70.6 】 %

大阪府 【 79.1 】 %

全国 【 78.6 】 %

無解答率 【 0.0 】 %

・考えられる課題 (※解答類型を活用して)

解答類型を見ると、2分の1又は0.5と解答しているものは本校ではなかった(大阪府0.4% 全国0.5%)。1980年の使用量である700と解答した児童が2.0%(大阪府・全国ともに1.5%)、700を7倍として解答した児童が9.8%(大阪府5.8%・全国6.0%)、2010年の使用量である1400と解答した児童が3.9%(大阪府・全国ともに0.4%)だった。1400を14倍として解答した児童が本校ではなかった(大阪府0.5%・全国0.5%)。

以上の結果より、倍の概念がしっかりと捉えられていない児童が多くいるということがわかる。特に1980年の使用量である700を7倍として誤答している児童の割合が多いことより、700倍という数字に違和感をもち、7倍と考えた児童が多いように思われる。やはり倍の概念をしっかりと押さえることが必要である。

【授業での考えられる課題】

『倍』の概念を扱う学習としての授業時数が少なく、かけ算やわり算単元の中の一部に配置されている。今回の課題を踏まえ、どちらを比べられる量、元にする量とするかなどを、図を元にして(書かせて)考えさせることが必要だと考える。

• 今後の取組の方向性


倍や割合の学習に抵抗を持っている児童は多い。今回の設問については、倍の学習の中でも基本的な学習事項である。そこでつまずいている児童が大阪府・全国と比べて多いということは、倍の基本的な概念を押さえられていない児童の割合が多いということである。ただ、一方で、理解している児童も7割いるということにもなるので、本校が力を入れている学び合い・教え合い活動を『倍の学習』にも積極的に取り入れていきたい。理解している児童にとっては、アウトプットすることで、より理解が深まり、つまずいている児童にとっては、少人数で学び合う中で、ヒントを見つけることができる。この活動を繰り返すことで、倍の基本的な学習事項を押さええていく。

【算 数】


○課題がみられる設問②

(3) はるとさんたちは、限定商品を買いたいと思っています。次の予定があるので、午後3時までにはレジに着きたいと考えています。

列に並ぶと、レジまでは14ポール分ありました。ポールとポールの間の長さはどこも同じです。



はるとさんたちが並んでから、4ポール分進むのに8分間かかり、残り10ポール分になりました。午後3時までは、残り33分間です。そこで、33分間以内にレジに着くことができるかどうかを考えてみました。



はると

4ポール分進むのに8分間かかったことから、残り10ポール分も同じ進みぐあいでも進むとして考えます。

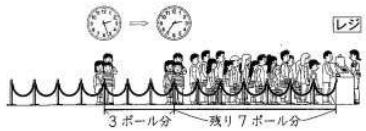
$8 \div 4 = 2$ で、1ポール分には2分間かかります。

残り10ポール分なので、 $2 \times 10 = 20$ で、20分間かかります。

だから、33分間以内にレジに着くことができます。

ところが、レジにいる店員さんが減ってしまいました。それから、3ポール分進むのに9分間かかり、残り7ポール分になりました。午後3時までは、残り24分間です。

そこで、はるとさんたちは、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを、もう一度考えてみました。



あかり

3ポール分進むのに9分間かかったことから、残り7ポール分も同じ進みぐあいでも進むとして考えます。

3ポール分進むのに9分間かかる進みぐあいでも進むと、残り7ポール分進むのにかかる時間は何分間ですか。

求め方を言葉や式を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

さらに、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

- 1 着くことができる。
- 2 着くことができない。

- 問題/正答 4 (3) / 【求め方】 (例) $9 \div 3 = 3$ で、1ポール分には3分間かかります。残り7ポール分なので、 $3 \times 7 = 21$ で、21分間かかります。

【答え】 21 (分間)

【番号】 1

• 平均正答率

能勢小学校 【 56.9 】 %

大阪府 【 62.1 】 %

全国 【 62.6 】 %

無解答率 【 2.0 】 %

• 考えられる課題 (※解答類型を活用して)

解答類型を見ると、1～16までの類型に属さない解答の割合(本校 33.3%大阪府 20.2%全国 19.7%)がとても高い。これは、問題の内容を理解できていない、あるいは長文を読むことを諦めた児童が多くいることを表している。正答率だけを見ると、大阪府・全国と比べマイナス6ポイントなのに対し、1～16までの類型に属さない解答の割合がマイナス10ポイント以上となっているところを見ると、この設問について理解している児童と全く問題の内容を理解していない児童の差がとても大きいという本校の課題がわかる。また、問題文にある例を活用することで、正答を導くことができることに気づいていない。

【授業での考えられる課題】

授業時間内に複数の条件が関わった問題(発展問題)にまで取り組むことができていない。あるいは長文を読解し、例題を用いた発展問題にまで取り組む時間の余裕が授業時間内にとれていないことが考えられる。

• 今後の取組の方向性

解答類型より、大阪府や全国の割合に近い児童が長文を読解し、正答を導くことができるようになってきているのは、これまでの取組の成果として考えられる。一方で、内容の理解まで至っていない児童の割合が高い。

3年生以上で取り組んでいる習熟度別分割は、とても有効な手段であると考え。「どんどんコース」では、複数の条件が関わった上記の設問のような問題を取り入れていき、児童間で考え方の交流を行う（学び合い活動）。

「じっくりコース」では、基本的な学習事項の定着を中心に行うが、まとめや練習の時間に、上記のような問題に触れる時間をできるだけ設定し、ペアやグループで解決させていく。

【児童質問紙】

○課題がみられる質問①

(5) 自分にはよいところがあると思いますか。

• 割合 あてはまらない、どちらかといえばあてはまらないと答えた割合の合計

能勢小学校【 30.2 】%

大阪府 【 22.1 】%

全国 【 18.7 】%

• 考えられる課題

本校の全学年を通した課題であると考え。授業中は落ち着き、学習に取り組んでいるが、発言が少ない。このあたりの児童の自信のなさが、自己肯定感の低さ、『自分にはよいところがあると思いますか』の回答結果に表れていると考える。

○今後の取組の方向性

昨年度より取り組み始めた肯定的評価活動に、今年度も継続して取り組んでいる。大阪樟蔭女子大学の田村先生に引き続きご指導いただき、児童に広めたい姿勢や態度、発言を肯定的に価値づけ、評価してきている。注意を多用するのではなく、肯定的に評価することで自己肯定感を育てていきたい。

○課題がみられる質問②

(8) 将来の夢や目標を持っていますか。

• 割合 あてはまらない、どちらかといえばあてはまらないと答えた割合の合計

能勢小学校【 24.6 】%

大阪府 【 19.0 】%

全国 【 16.2 】%

• 考えられる課題

地域の方より、仕事の苦労や喜びを聞く機会はあるが、その方の生き方などキャリア教育という視点での学習活動にあまり取り組むことができていない。自己肯定感の低さとも関連があると考え。

• 今後の取組の方向性

能勢小学校では、地域の方より、体験及び聞きとり学習を通して、自然・産業・歴史・文化等に触れる機会が多くある。そこで各分野に携わられている方の想いを聞いたり、生き方にまで触れていけたりするようなキャリア教育の視点を交えた取り組みを検討していく。また、上記で示された自己肯定感を高く持てるような取り組みを行っていく。

○課題がみられる質問③

(18) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

• 割合 30分以上1時間より少ない、30分より少ないと答えた割合の合計

能勢小学校【 52.8 】%

大阪府 【 36.5 】%

全国 【 31.7 】%

• 考えられる課題

(17) 『家で自分で計画を立てて勉強していますか』の肯定的回答が大阪府・全国を上回っていることより次のことが考えられる。

①計画を立てているが、実行しきれていない

②計画を立てているが、時間を意識するより、宿題が終われば終わりと考えている

③家庭学習の習慣が身につけていない

『30分以上1時間より少ない』の割合が大阪府・全国を上回っていることより②に該当する児童がとて多いと考える。

• 今後の取組の方向性

上記の課題より、宿題をする習慣はついているが、そこで終わってしまっている児童が多くいるのではないかと考える。1学期より本校では、3年生以上で自主学習に取り組んでいる。賞の創設などを行い、自主学習を定着させられるよう、宿題プラスαの取組により力を入れていく。

○課題がみられる質問④

(31) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか

• 割合

| |
|-------------|
| あてはまると答えた割合 |
|-------------|

能勢小学校【 11.3 】%

大阪府 【 18.7 】%

全国 【 25.1 】%

• 考えられる課題

学年ごとに積極的に地域学習に取り組み、地域の方との関わりも多いが、自分で課題を立てるところには至っていない。

• 今後の取組の方向性

今回の質問紙を見ると、教科での話し合い活動や考えを深める活動については肯定的な回答が大阪府・全国を上回っているところから、自ら意欲的に課題に取り組む姿が見られる。総合的な学習でも、今行っている地域学習の中で、児童自ら課題を設定できるような仕掛けを取り入れる必要がある。

○課題がみられる設問①

1 問題用紙Ⅱの【全国中学生新聞】を読んで、あとの問いに答えなさい

日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。例えば、「弁当 (Bento)」、「漫画 (Manga)」、「俳句 (Haiku)」、「盆栽 (bonsai)」、「折り紙 (origami)」は、英語やフランス語などの辞書に載っており、海外で受け入れられていることが分かります。本シリーズでは、この五つの日本の文化を取り上げ、五回にわたって、その魅力を紹介していきます。第一回は、弁当です。

一「ヘシリーズ」再発見！日本の文化」にある「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です」という文章()で囲まれた部分)について説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 日本の文化の例を複数示すことで、読者が様々な国の文化と比較しながらこの紙面を読むことができるようにしている。
- 2 このシリーズで取り上げる内容を示すことで、読者が今後の掲載の見通しをもつことができるようにしている。
- 3 「海外に広がる弁当の魅力」の記事の要約を示すことで、読者が時間をかけずに新聞を読むことができるようにしている。
- 4 外国語の辞書に載っている言葉を示すことで、読者が海外と日本の言葉の意味の違いに気付くことができるようにしている。

• 問題/正答 1 -/2

• 平均正答率

能勢中学校 【 54.7 】 %

大阪府 【 60.9 】 %

全国 【 63.9 】 %

無解答率 【 0 】 %

• 考えられる課題 (※解答類型を活用して)

文章の構成や展開、表現の仕方を分析的に捉え、そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりすることに課題がある。

• 今後の取組の方向性

選択肢の中の文言「日本の文化の例を複数示すことで……」など、説明文の内容に合致した文言に引かれて選択している生徒が多いと考える。引っかけ問題に引っかけないように「読む」能力をつけなければならない。文章は、段落ごとにその文章の意図を明確にしてから次へと読み進めるようにする。例えば、事実、根拠(具体例)、意見を分けて考えるように指導する。

授業では、クラス全体で一緒に読み進め、段落ごとにその意図について意見を交わし、自分の見解を説明するようにする。日ごろから本を読む人は文章を読むことに慣れているので、読み取る力も身につけやすい。本校3年の47%が、平日に全く読書をしないと答えている。朝学習の時間などもいいが、学校では長い時間が確保できないので、家庭で読書をする仕掛けを図書館司書とともに進めていく。

【国語】

○課題がみられる設問②

2 第一中学校の生徒会委員の山下さんたちは「靴を脱ぎはがすのが大前提」を文化祭にするために「話し合いの第一」です。これを観念して、もとの期日に答えをい（場面①）から場面②は「最終的な場出です」

場面①

（議題）
地域とのつながりを大切にした文化祭にするためには、生徒会が地域で行っていることについての展示・高齢者向けの施設での交流会の様子・地域の清掃活動の様子
二 展示や発表を見に来てくださる方への配慮

この前、インターネットのニュースを見て、高齢者の中には少しの段差でも歩きづらいついたり、段差に気付かずに驚いたりしている方がいることを知りました。文化祭には、毎年、高齢者がたくさんいらっしゃいます。ですから、体育館へ向かう通路などに、「段差に気を付けてください」と書いた紙を掲示してはどうでしょうか。

山下さん
西野さん
「ネットにそのようなニュースが出ているんですね。掲示物で注意するのはよいアイデアだと思います。そういえば、校内に「土足禁止」という掲示物がありますが、展示や発表を見に来てくださる方に対する配慮の使いかたとしては、ふさわしいと思います。別の表現にしてはどうでしょうか。」

山下さん
「そうですね、段差への注意を促す掲示物を作ることにしましょう。「土足禁止」をどのような表現に直すのかについては、話し合わないといけませんね。以前から、靴を脱いでいました。」

山下さんも気になっていたんですね。それに、例年、展示や発表の場所が校内に点花しているので、見て回る経路の例を考えた紙を配るとよいと思います。

西野さん
「賛成です。展示や発表の場所は体育館や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。具体的な経路の例は、展示や発表の場所が決まってから検討しましょう。それでは、今日の話し合いはここまでですね。」

ちょっと待ってください。具体的な経路のことについては山下さんの前よりお願いしたいのですが、今回出されたことの中で、まだ、どうするか決まっていなことがあります。

場面②

「生徒会が地域で行っていることについての展示」は、この二つにします。次は、「展示や発表を見に来てくださる方への配慮」について考えましょう。

場面③

三 場面③の「A」で山下さんは、「どうするか決まっていなことが」という自分の考えを述べようとしています。あなたも、どのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話し合うように書きなさい。なお、読み直して文章を直したいときは、一本線でも消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていなことが」とは何かを明確にして書いてください。
条件2 条件1で示した「どうするか決まっていなことが」を解決する具体的な案を考えて書いてください。

・問題/正答 ② 三/（例） 校内にある「土足禁止」という掲示物の表現をどのように直すのかについてです。私は、文化祭に来てくださる方に対しては、「ここで靴を脱いでお上がりください。」のように直すと思います。皆さんはどう思いますか。

- ・平均正答率
能勢中学校【 54.7 】% 大阪府 【 56.0 】%
全国 【 60.4 】% 無解答率 【 13.2 】%
- ・考えられる課題（※解答類型を活用して）

正答の条件3つ ①「どうするか決まっていなことが」を明確にしている。② ①の解決案を書いている。③話し言葉にしている。②を書いていないものが9.4%いた（全国は9.4%）。課題の解決に向けた自分なりの考えを持つことが課題である。

・今後の取組の方向性

- 話す・聞く能力を伸ばすために a～d を意識したスピーチ、ディスカッションなどを進める。
- a、自分の考えを持つ（話題を具体化する話材を適切に選択させる）
 - b、論理的に話す（事実と意見の配列に注意し、意見を明瞭にする）
 - c、効果的に話す（自分の気持ちを明確にし、話す速度や音量、間、語句の使い方、話の展開を工夫する）
 - d、的確に聞く（話の構成や筋道を正確に捉える）

【数 学】

○課題がみられる設問①

4 下の表は、 y が x に反比例する関係を表したものです。 y を x の式で表しなさい。

| | | | | | | | | | |
|-----|-----|----|----|----|---|----|----|----|-----|
| x | ... | -3 | -2 | -1 | 0 | 1 | 2 | 3 | ... |
| y | ... | 2 | 3 | 6 | × | -6 | -3 | -2 | ... |

- 問題/正答 4 / $y = -\frac{6}{x}$
- 平均正答率
 能勢中学校【 22.6 】%
 大阪府 【 46.3 】%
 全国 【 48.9 】%
 無解答率 【 13.2 】%
- 考えられる課題 (※解答類型を活用して)

$y=-6x$ などの比例の式を書いた誤答が全国は12.5%に対して、本校は20.8%と高い。
 ⇒表は $x=0$ のとき y が×になっているように特徴のある表である。したがって、反比例とは容易に判断できるものの、反比例の表と、反比例の式がリンクされていないと考えられる。

$y=a/x$ と、公式のままである誤答が、全国は1.5%に対し、本校は9.4%と高い。
 ⇒表から、反比例であることは認識していて、式の形も覚えているが、 y を x の式で表しなさいという問題の本来の意味が理解できていない。

予測された解答以外の誤答が全国は9.7%に対して、本校は18.9%と高い。
 ⇒この問題は基本的な内容であり、予測された解答以外が多いことから、関数の内容の押さえが不足していることが考えられる。

【授業での考えられる課題】

関数分野は「グラフ・表・式」の3つに分けられ、その中でも、視覚的に入りやすいグラフに重点を置き練習を行った。この3つのつながりを重視して指導を行ったが、確認という点では押さえが甘かったのではないかと考えられる。

今後の取組の方向性

上記の誤答の傾向を見ると、関数というものをなんとなく理解している生徒が多い。期間が開くことにより、定着が甘い生徒に関しては、今回のような誤答が増えることが考えられる。定着させるためには、そのときの授業での単元での確認のプリントやテストを行うこと、範囲学習後でも知識的な分野に関しては、定期的な確認プリントを行う等、より定着を目指した取組を行う必要がある。

【数 学】

• 課題がみられる設問②

⑥ 健太さんの家では、冷蔵庫の購入を検討しています。健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて調べたことを、次のような表にまとめました。

健太さんが作った表

| | 冷蔵庫A | 冷蔵庫B | 冷蔵庫C |
|-------------|---------|----------|----------|
| 容量 | 400 L | 500 L | 500 L |
| 本体価格 | 80000 円 | 100000 円 | 150000 円 |
| 1 年間あたりの電気代 | 15000 円 | 11000 円 | 6500 円 |

(2) 健太さんの家では、7ページの健太さんが作った表で、容量が500 Lである冷蔵庫Bと冷蔵庫Cのどちらかを購入することになりました。そこで、健太さんとお姉さんは、冷蔵庫を購入して1年間使用するときの総費用を y 円として、冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用を比べてみることにしました。

健太さん「本体価格は冷蔵庫Cの方が高いので、最初のうちは冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が多いね。」
 お姉さん「1年間あたりの電気代は冷蔵庫Cの方が安いので、使い続けると冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が少なくなるね。」
 健太さん「それなら、2つの冷蔵庫の総費用が等しくなるときがあるね。」

冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなるおよその使用年数を考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。
 ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。

ア それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式

イ それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ

• 問題/正答 ⑥ (2) / (例) アを選択して

(説明) 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、使用年数と総費用の関係から連立方程式をつくり、それを解いて使用年数の値を求める。

• 平均正答率

能勢中学校 【 22.6 】 %

大阪府 【 33.1 】 %

全国 【 34.7 】 %

無解答率 【 3.8 】 %

• 考えられる課題 (※解答類型を活用して)

連立方程式を用いる側を選択した生徒の正答率は全国が 15.8%に対して、本校は 13.2%とそれほど差は大きくないが、グラフを用いる側を選択した生徒の正答率は全国が 19.4%に対して、本校は 9.4%と大きく差が開いている。

【グラフを用いる側の詳細】

☆グラフを用いることのみを記述しての誤答(本来は交点の座標を読みとるまで必要)が、全国は 3.5%に対して、本校は 11.3%と高い。

⇒問題はしっかり読めているが、2直線の交点が何を表しているかまで理解できていない生徒と、その言葉が説明をする上で必要不可欠であると判断できていない生徒がいると考えられる。

☆その他として、ア・イの記号も答えていない無解答は、全国が 11.6%に対して、本校は 3.8%と低いが、記号アだけを選んで説明が無解答は、全国が 10.8%に対して、本校は 17.0%、同様にイを選んで無解答は、全国が 8.3%に対して、本校は 9.4%で、合算すると、全国が 35.6%に対して、35.9%とほぼ同値である。

⇒無解答の数値だけ見ると低いが、この問題の本来のねらいから見ると、全国・本校ともに3割以上の生徒が無解答である。どちらかを選ぶという最低限のことはできているが、何を答えればよいかまで理解できていない生徒が多いと考えられる。

【授業での考えられる課題】

一次関数の利用の範囲の授業では、問題から立式又はグラフから読みとる問題を行うが、自ら方法を選択し、その結果だけでなく途中の過程を説明させる学習は行っていないのが現状である。

・今後の取組の方向性

問題を解く力だけでなく、相手に伝えるような言語（数学的用語）を適切に使い説明する活動を行う必要がある。またこういった問題での力は、教師⇄生徒のやりとりでは生徒の誤った説明や、不足している説明の意図をくみ取って補足してしまうことがあるので、生徒⇄生徒の活動を取り入れていく必要がある。

【英語（聞くこと）】

○課題がみられる設問①

4 (放送問題)

英語の授業で、来日予定の留学生からの音声メッセージを聞くところです。
メッセージの内容を踏まえて、あなたのアドバイスを英語で簡潔に書きなさい。

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に
書きなさい。

(放送問題) Hello. I'm Nick. I'm looking forward to meeting you. I'm going to stay in your country for two weeks. I hear that there are a lot of club activities in Japanese schools. I want to try some! Which club activities can I try? Can you give me some advice? I'm waiting for your answer. Thank you.

• 問題/正答 **4** / (例) You can try the judo club.

• 平均正答率

能勢中学校【 5.7 】%

大阪府 【 6.9 】%

全国 【 7.6 】%

無解答率 【 34.0 】%

• 考えられる課題 (※解答類型を活用して)

「ニックができる部活動についてのアドバイスを、十分理解できる英語で解答しているもの」の本校の正答率が 1.9%であり、「概ね理解できる英語で解答しているもの」の本校の正答率が 3.8%と 2 倍となっている。これは、普段の授業の中で生徒が教師の質問に答える様子から次のように推察される。「You can try the judo club.」「Why don't you join the music club?」などと正しい主語、動詞から構成される文の形ではなく、「The art club.」などのような語や句で解答しているものが多いことが推察できる。文の形まではいかないが、聞かれていることに対して応じようとする前向きな姿勢は見られる。

【授業での考えられる課題】

英問英答の際に、語や句のみで答えることを許容していることが課題であると考えられる。生徒同士、あるいは教師と生徒の間での英問英答の場面では、必ず主語、動詞のある文の形で答えるよう今まで以上に普段より習慣づける必要がある。

• 今後の取組の方向性

上記のように、尋ねられたことに対して文の形で答える習慣づけを今まで以上に意識した指導を行う。例えば、単語練習の活動の際に出てくる新出単語を使用した疑問文を生徒に尋ねたときに、単語のみで答えが返ってきた場合、文の形で答えるよう促すようにする。

Teacher: Where did you go during summer vacation?

Student: Sea.

Teacher: Oh, you went to the sea.

Student: Yes. I went to the sea.

上記のようなやりとりをしながら、文を作ることを意識付けしていく。

【英語（読むこと）】

○課題がみられる設問②

- 8 英語の授業で、次のような資料が配られました。これを読んで、文中の問いかけに対するあなたの考えを英語で簡潔に書きなさい。

There are a lot of hungry people in the world. The World Food Programme gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project. However, here in Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. It means that one person wastes two rice balls every day. We waste food not only at home, but also at restaurants, convenience stores, supermarkets, schools, and some other places. That is really *mottainai*! We have to stop wasting food now. What can we do about this problem?

(注) the World Food Programme: 世界食糧計画 (国際連合の事業)
project: 事業 waste: ~を無駄にする rice ball: おにぎり
not only ~, but also ...: ~だけでなく, ...も

・問題/正答 8 / (例) We should not buy too much food.

・平均正答率

能勢中学校【 15.1 】%

大阪府 【 12.0 】%

全国 【 10.9 】%

無解答率 【 28.3 】%

・考えられる課題 (※解答類型を活用して)

読み取る力を測る問題なので、「食糧を無駄にすることをやめるために自分ができることについて、十分理解できる英語で解答しているもの」と「概ね理解できる英語で解答しているもの」を合わせて本校は 9.4%の正答率であり、全国の 6.7%と比較し、上回っているが数値的には非常に低い。さらには、「問題点が飢餓に苦しむ人々がたくさんいることだととらえ、自分ができることを解答しているもの」の本校の正答率は 5.7%であり、全国の 4.0%と比較すると大きく上回っているが、英文で問われている内容を正確に理解できていない点が課題である。

無解答が 28.3% (全国 27.9%) と多かった。長文に対するアレルギーから、すぐに諦めてしまっているのではないかと推察できる。

【授業で考えられる課題】

「What can we do about this problem?」の「this problem」の内容を、まずは日本語で述べることができるかが課題である。教科書読解の際に、細かく授業の中で問わずに、英文和訳を終えて教科書の内容を理解したつもりになってしまっているように思われる。

- 今後の取組の方向性

今まで以上に「this」「that」「it」などの代名詞について細かくその内容を追求しながら、長文の内容を理解するよう取り組む必要がある。

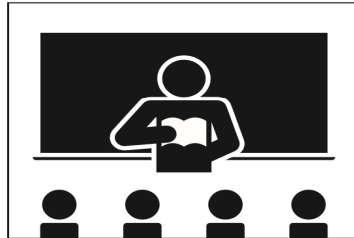
「長文は、読めば必ず答えが書いてある」ということをテストの度に生徒には伝え、解説の際に実証してきたが、今後も引き続き長文アレルギーを減らすべく読み物教材を教科書外から取り入れることを検討したい。

【英 語（書くこと）】

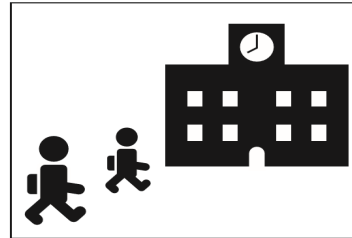
○課題がみられる設問③

10 海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。

【 A 】



【 B 】



※ 短縮形（I'm や don't など）は1語と数え、符号（、や？ など）は語数に含めません。

（例） No, I'm not. 【3語】

- 問題/正答 10 / （例）【あなたの選んだ案：A】 I think A is better. It shows a teacher and students in a classroom, so it looks like a school. I don't think B is good because it looks like a library.

能勢中学校 【 1.9 】 %
大阪府 【 1.9 】 %
全国 【 1.8 】 %
無解答率 【 7.5 】 %

- 考えられる課題（※解答類型を活用して）

「次の正答の条件3つ（①どちらの案がよいか、一つ選んで意見を書いている。②選んだ理由等について、2つの案に触れながら書いている。③25語以上の英語で書いている。）を満たして正確な英語で解答している」が本校では0.0%であり、全国の0.1%より下回っている。しかしながら、「条件①②③を満たし、概ね正確な英語で解答している」の正答率は本校では1.9%で全国では0.5%であり、全国を上回る正答率だった。完璧な文章ではないが、概ねコミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがない状態であり、口頭での解答であれば十分に相手に通じるものであろう。

本校の無解答率が7.5%で全国の8.3%を下回っている点から、何かを伝えようと解答用紙に向き合った生徒の様子が浮かび上がった。

• 今後の取組の方向性

4 技能の習得を意識した取組を行う。

Speaking & Listening…ペアで与えられたテーマについて5分程度で会話を行う。

Writing…自分が話した内容を英文で書く。あるいは、相手の話の内容を英文で書くことも可能。

Reading…自分が書いた英文をパートナーに読み、間違い等を正してもらう。

この取組の際には、slow learner は自力やパートナーの助言・サポートで何もできない状態から前進することができる。教師一人の力ではなく、生徒同士の間でお互いに力をつけていく方策である。

【英 語 (話すこと)】

○課題がみられる設問④

H31 中学校・英語 「話すこと」 スクリプト

※画面の説明や録音の練習等については省略

これから、「話すこと」の調査を始めます。問題は5問あります。問題音声が行れる回数は、全て1回です。解答は、全て英語ではっきりと話してください。

大問1 これから画面上にイラストが表示されます。そのあと、イラストについての質問に英語で答えてください。問題は、(1)から(3)まであります。それでは始めます。

7

| | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | 31 | | | |



(1) When is her birthday?

(解答時間 6 秒)

- 問題/正答 大問1 / (例) It' s July second.
- 平均正答率
能勢中学校【 9.4 】%
大阪府 【 値なし】%
全国 【 27.3 】%
無解答率 【 17.0 】%
- 考えられる課題 (※解答類型を活用して)

「正しい月日を文で解答しているもの (It' s July second.)」が 0.0%だったが、「正しい月日を句で解答しているもの (July second.)」が 9.4%だった。「It' s」ぐらい省いてもさほど情報を伝えるのに支障はない、という程度の感覚でこのような結果となったのであろう。しかし、「誤った月日を句で解答しているもの」が本校は 37.7%もあり、全国の 16.2%を大きく上回っている点は、課題である。7 月は「July」であり、2 日は「second」であることは正確に言えるべきである。

- 今後の取組の方向性

今までの方策を変更し、毎授業の冒頭に行っている日付の言い方を生徒一人ひとりが確実に言う機会を設定する。合わせて月の名称を1月から12月まで言えるよう随時復習を行う。

【生徒質問紙】

○課題がみられる質問①

(18) 学校の授業時間以外に普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）

・割合 30分より少ない、まったくしないと答えた割合の合計

能勢中学校 【 20.7 】% 【 35 / 29 / 31 】% ← 参考：1学期末授業アンケートの回答
大阪府 【 18.0 】% 【3年/2年/1年】
全国 【 12.8 】%

・考えられる課題

同質問の3年回答が1学期末でさらに悪化、また1・2年の数値も良くないのが大変気がかりである。(17)家で自分で計画を立てて勉強していますか、の能勢中回答と大阪府・全国との差がほとんどないところからすると次のことが考えられる。①計画は立てているものの実行しきれていない ②計画学習時間の設定がそもそも少ない ③家庭学習の習慣が身につけていない

・今後の取組の方向性

今年度より研究部で進めている「CSnote（自主学習ノート）」の取組を継続し、生徒の意欲を一層高めるとともに、自主学習・家庭学習の質・量を更に向上させる。また、「AStime（放課後学習）」参加者には、個々の抱える学習課題の解決を図りながら、自主学習・家庭学習につなげる。また、2学期末の授業アンケートの回答とも比較しながら、全学年で改善を図る。

○課題がみられる質問②

(19) 学校の授業時間以外に普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。

• 割合 まったくしないと答えた割合

能勢中学校【 47.2 】%

大阪府 【 44.8 】%

全国 【 34.8 】%

• 考えられる課題

能勢中3年生のスマホ所持率は80.8%であり、そのうちの53.8%が1日3時間以上スマホを触っている。学習時間や読書時間を増やすには、スマホを触る時間を減らす必要がある。

• 今後の取組の方向性

学校だより等で、この結果を生徒・保護者に知らせ、スマホの使い方についての見直しを促す。読書については、図書館司書と協力した取組を図り、学校ぐるみで読書習慣をつけさせる。

○課題がみられる質問③

(32) 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

- 割合 当てはまる、どちらかといえば当てはまると答えた割合の合計

能勢中学校【 62.2 】% 【 88 / 87 / 84 】% ← 参考：1学期末授業アンケートの回答
大阪府 【 67.5 】% 【3年/2年/1年】
全国 【 72.8 】%

- 考えられる課題

同質問の3年回答は1学期末で数値が好転しており、1・2年もほぼ同様の数値を示している。4月段階では、話し合い活動の実感が得られなかったが、1学期を振り返ったとき、全学年ともその場面の良さが実感できた結果だと考える。

- 今後の取組の方向性

1学期は中堅教諭による研究授業を行った。事後研では、授業者の行った授業の分析を行い、より思考力の育成につなげるための授業にするにはどのような方法があるのかということ、グループワークにより思案した。2学期も研究授業により、思考力の育成につなげる研究を進めていくとともに、そのベースとなる集団づくりも進めていく。

○課題がみられる質問④

(5) 自分にはよいところがあると思いますか。

- 割合 当てはまらないと答えた割合

能勢中学校【 17.0 】%
大阪府 【 9.5 】%
全国 【 7.3 】%

- 考えられる課題

家庭環境が不安定な生徒、学習や人間関係につまずきを感じている生徒、集団になじみにくい生徒等が能勢中3年にも少なからず在籍している。それらの生徒の自己肯定感の低さは課題である。また、一見何も課題がなさそうに見える生徒の中にも自己肯定感が低い生徒が存在する。

- 今後の取組の方向性

自己肯定感、学習・スポーツ・人間関係などの学校生活上での様々な意欲に関係する。多様な教育や集団づくりの取組を促進し、進路を切り拓く力を育成したい。